学校経営推進費　評価報告書（１年め）

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立西淀川支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	１　支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 ２　学校教育自己診断（教員） ３　専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）における支援機器の活用による評価向上
計画名	「どんどんいこーぜ！プロジェクト」 教育活動における移動支援機器の活用プログラムの充実および移動支援機器学習段階表を用いた評価の妥当性の検証

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	３　【子どもの障がいの状況に応じたより良い教育活動を実践するため、特別支援教育に関する高い専門性と授業力の向上をめざす】 ２）　新しい支援機器を導入する等、支援機器の充実による自立活動の指導内容の充実 ア　児童生徒の実態に合わせた様々なスイッチ等を開発、ロコモーターを有効活用し、電動車いすによる児童生徒の積極的な社会参加を促進 ※　実践報告会等での実践事例の共有。支援機器の有用性に対する肯定的評価 80%以上とする
事業目標	児童生徒の障がいの状況に応じた教育活動を実践するため、「移動支援機器（Don Don ikoo）」を活用した教育プログラムの充実をめざす。平成 30 年度は 72%であった学校教育診断（教員）における支援機器の有用性に対する肯定的評価を、この事業を通して毎年３%ずつ引き上げる。また、移動支援機器を使用した児童生徒の認知発達の向上を、移動支援機器学習段階表（15 段階）を用いて評価する。そして、その評価の妥当性を検証し、有用性の高い評価指標を精査する。
整備した設備・物品	Don Don ikoo（どんどんいこー）３台 ※ 製品概要：自力で移動できない重度の障害を持った子供が自分の意志で移動できることを可能にした電動台車。荷締めベルトで固定するだけで、様々な姿勢保持装置を乗せて動かせる。
取組みの主担・実施者	主担：　特色創造プロジェクトチーム 取組みの実施者：　全教員の７割程度を予定
本年度の取組内容	ž 特色創造プロジェクトチーム初年度発足（４月） ž 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）を全教員に実施、現状分析（４、５月） ž 移動支援機器（Carry Loco モーター）活用教員研修（６月） ž 移動支援機器指導対象児童生徒・授業を決定・実践開始（６、７月） ž 中間評価（９月） ž Don Don ikoo 活用教員研修（10 月） ž 校内活用報告会（２月） ž 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）を全教員に実施→最終評価（３月） ž 次年度に向けた方針決定（３月）

成果の検証方法と評価指標	１ 学校教育自己診断（保護者）：「子どもの可能性を向上させる授業が行われている」 ･･ 肯定的評価 70%にする。 ２ 学校教育自己診断（教員）：「支援機器の活用により指導内容の充実が図られている。」 ･･････････････････････ 肯定的評価を平成 30 年度（72%）比３%引き上げ、75%にする。 ３ 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）： ･･････････････････････ 自己評価３以上を 50%にし教員の支援機器の活用の推進を図る。 ４ 移動支援機器学習段階表（15 段階）： ･･････････････････ 評価の妥当性を検証し、段階が１段階向上した児童生徒を 50%にする。
自己評価	１ 学校教育自己診断（保護者）：肯定的評価 100%･････････････････････････････ （◎） ２ 学校教育自己診断（教員）については、:肯定的評価 91%･････････････････････ （◎） ３ 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）：移動支援機器（Carry Loco モーター）を活用した指導の知識と技術の項目は自己評価３以上が小 39%、中高 42%であった。 ･･ （△） ４ 移動支援機器学習段階表（15 段階）：１段階向上した児童生徒 25% ･････････････ （△） Don Don ikoo の使用については、小学部 13 名、中学部６名、高等部８名の計 27 名が使用し、個人の最大使用回数は、21 回で全体合計の使用回数は 221 回であった。使用場面は、自立活動時間の指導が中心であった。その他では、体育や文化祭での舞台発表での使用があった。 移動支援機器学習段階表の検証については、Don Don ikoo、Carry Loco モーター、電動車いすで実施し、指導期間６か月（９月～２月）で段階が向上した児童生徒は８名であった。１段階向上した児童生徒が５名、３段階向上した児童生徒が２名、最大では６段階向上した生徒がいた。 全体としては、今後の指導継続でさらなる向上を期待できる児童生徒と指導の再検討が必要な児童生徒がおり、次年度への課題としていきたい。
次年度に向けて	今後の展望については、導入期の活用を広く推進することから移動支援学習段階表の改訂を行う。 現在の学習段階表は、操作性の向上・空間認識の向上に特化した指標となっている。１年間この学習段階表を活用した結果、障がいの重い児童生徒にとって、段階３（ステップ①）から段階４（ステップ②）に向上することが難しいことがわかった。このことから、ステップ①からステップ②への向上には、初期の認知（前庭感覚の気づき、単一の因果関係の理解等）を高める必要があるということが明らかになった。このことを踏まえ、学習段階表を２つの系統に分ける。「系統１」は「認知初期の段階表」として６段階程度に細分化し、認知学習のアセスメントチェックリストと関連させる。「系統２」は「操作性向上の段階表」として、移動支援機器を社会参加するツールとしてどのくらい活用できるかを表す指標とする。 各系統の対象となる児童生徒を小３名、中２名、高２名の計７名程度抽出して学習段階表の検証を行うとともに、指導の経過を「指導モデル事例集」（R２年度より作成し完成は R３年度）としてまとめ、報告を行う。移動支援機器を活用した指導が「移動支援機器ありき」にならず、必然性をもった指導内容になることをめざしていきたい。